令和元年度　社会福祉法人えどがわ評議員会・理事会

実施日	議　案	場　所	出席人数
令和元年 6月7日（金） 第90回理事会	①平成30年度事業報告について ②平成30年度決算報告について ③令和2年度民営化予定園の園名について ④定時評議員会の招集について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	9名
令和元年 6月25日（火） 第78回評議員会	①平成30年度事業報告について ②平成30年度決算報告について ③令和2年度民営化予定園の園名について ④理事並び監事の選任について	グリーンパレス 高砂・羽衣	12名
令和元年 6月25日（火） 第91回理事会	①理事長・副理事長・常務理事の互選について	グリーンパレス 高砂・羽衣	8名
令和元年 9月26日（木） 第79回評議員会	①令和元年度事業報告(中間報告)について ②令和元年度補正予算（案）について ③規程等の改正（案）について	タワーホール船堀 蓬莱	11名
令和元年 9月26日（木） 第92回理事会	①令和元年度事業報告(中間報告)について ②令和元年度補正予算（案）について ③規程等の改正（案）について	タワーホール船堀 蓬莱	10名
令和元年 12月18日（水） 第80回評議員会	①令和2年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について	タワーホール船堀 303会議室	10名
令和元年 12月18日（水） 第93回理事会	①令和2年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について	タワーホール船堀 303会議室	8名
令和2年 3月24日（火） 第81回評議員会	①令和元年度補正予算（案）について ②令和2年度当初予算（案）について ③園長級昇任（案）について ④規程の改正（案）について	（書面会議）	10名
令和2年 3月24日（火） 第94回理事会	①令和元年度補正予算（案）について ②令和2年度当初予算（案）について ③園長級昇任（案）について ④規程の改正（案）について	（書面会議）	10名

令和元年度　葛西おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・明るく、健康で、挨拶がはきはきできる子　　・思いやりのある優しい心を育む　　・感性を大切にし、伸びやかに表現しようとする子
・心身の発達を見守りながら、身体機能の発育を目指す。

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・一人一人が安全で快適に生活できる環境作りを行う。 ・発達や年齢にあった玩具やコーナー作りを行う。 ・全職員で環境整備や危険個所の確認をし事故防止する。 ・子どもの心を受け止め一人一人と向き合い保育する。	・1歳クラスは間仕切りゲートを設置、落ち着いて遊べる環境作りを行った。園内はコーナーガードを付け怪我事故防止に努め、定期的に確認し、職員の気付き多くなり視野も広がった。 ・全職員が、全ての子どもの育ちや保護者の事を把握し、丁寧な対応ができるよう乳幼児会議や毎日の朝昼礼で情報を共有。但しクラス内での伝達が行き届きてないこともあり、次年度も引き続き報告・連絡・相談が浸透できるように努めていきたい。
教育	・職員が進んで、笑顔で気持ちの良い挨拶をする。 ・保育の中で、子どもが興味・関心を持ったことを大切に一人一人が遊びこめる環境作りが提供できるよう工夫する。 ・自分の気持ちを言葉にし、相手に伝える大切さや、相手の気持ちを知り、一人一人が自信を持ち成長できるようにする	・職員が挨拶を進んで行う事で、挨拶をする子が増え雰囲気も良くなった。 ・職員会議等で各クラスの遊びこめる環境について話し合い実践したが、議題が多く進まず、具体的に進まず。会議の方法を工夫し、職員が発言できる場を設け、次年度は一人一人の子どもの事をよく考え職員がアイデアを出し合い計画、実行、評価、改善をする。
子育て支援	・登降園時に園での子どもの様子を伝え信頼関係を築く。 ・ホームページやブログを利用し、利用者や地域に向けて情報を発信し、子育てひろば等、地域の家庭支援を行う。 ・支援の必要な家庭には、面談や個別の支援を行う。	・登園時、保護者から子どもの様子を聞き各職員に伝達できるが、降園時は担任ではなく当番職員が多いこともあり、「特にありません」と答えてしまう職員が多く、利用者調査アンケートにも職員により対応の差があると指摘。子どもの遊んでいる様子等しっかり伝えられるようにする。 ・ホームページやブログは定期的に載せているが、クラスにより回数に偏りがある為、改善する。 ・支援に必要な家庭には、細目に面談を実施し、会議等で情報を共有した。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

大切な子どもの命を預かるために、日々の生活の中で消毒を行い、定期的に園内を点検、危険個所を把握した。各クラスの気づきで、ヒヤリハット報告を昼礼で共通理解を持つことにより、大きな事故や怪我は無かった。一番多くかかった感染症は、溶連菌感染症で兄弟関係や夕方の合同保育、クラス内感染が多くみられた。2番目のインフルエンザに関しては、大人数の保護者で行ったバーベキューがきっかけで感染が拡大したことや、園内で熱が出た際に保護者のお迎えが仕事の為に遅くなり更に広がってしまったので高熱が出た際は至急お迎えに来て頂くよう徹底したい。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

回収率は52%。前年度と比較し満足が増加していた点は評価できる。登降園の際に職員からの伝達事項の内容等を統一してほしいという意見を頂いた。対応方法を均等にするよう改善した。次年度はブログの更新を増やし、子どもの事を伝達出来るよう努力する。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

「職員の仲が良く相談し助け合ったり職場の雰囲気が良い」「毎日ヒヤリハットを出し共有する事により事故や怪我が減少した」。退職者もいて「人手不足で疲労困憊。余裕がない。有休取れない。毎日残業の日々」の意見が多い。仕事の進め方等の業務改革環境を整え、より働きやすい職場にした。

6. 1年の総括

保育園全館の空調改修工事を無事に終了。今年度は職員が体調を崩したり、途中退職する職員が多く、残された職員で職務をこなす日が続いた。事故や怪我に注意し、保育を進め、体制が厳しい中で、工夫、研修会に出かけたり、会議を通して情報を共有した。次年度は、保育や行事の見直しを進め、子ども一人ひとりがじっくりと遊びこめる環境を各クラスが少しづつ作れるよう、全職員で努力していきたい。

令和元年度　新堀おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

・健康で明るく元気な子　　・感性豊かで自分を表現できる子　　・思いやりのある優しい子

2.年間報告

	年間計画内容	評価　反省
養護	・生活に必要な基本的生活習慣や生活リズムを大切にし情緒が安定出来る環境を整える。 ・基本的生活習慣が習得できるよう丁寧に関わる。 ・一人一人の様々な欲求を受け止め、安心感と信頼感を持って保育する。 ・子ども達の気持ちに共感し信頼関係を築き、意欲的に生活できるように援助していく。	・家庭と連携を図り、子ども一人一人の生活リズムの安定、基本的生活習慣を身に付けられるよう丁寧に関わった。毎日の応答的な対応を基本に子ども達と関わることで、より深い信頼関係に繋り子ども達は安心して過ごすことが出来た。 ・環境面では子どもの状況を考慮したコーナーの設置などを心掛けた。玩具の入れ替えなど子ども欲求を満たすものを設置した。
教育	・主体的に行動できるようにする。 ・子ども達が身近な環境に関わり様々な活動を楽しみ、考え、工夫したりしながら主体的に行動出来るよう、保育士はサポート。また、諦めずにやり遂げた時の達成感を味わう経験をすることで自信に繋げる。	・肯定的な声掛けをし子どもの主体的（自己発見、自己興味、自己納得）行動が出来るように見守り援助することを心掛けた。また保育士の声掛けは過度にならないように留意した。 ・幼児の体育活動、英語あそび、音楽は各年齢と子ども達の状況に合わせて取り組み一人ひとりの達成感を味わえるようにした。
子育て支援	・保育体験や子育てひろば等を通し地域との関りを持つ。 ・保育園での様子や活動を知ってもらい、地域に保育園施設を提供、様々な情報を得る事で子育ての手助けになるようにする。また、他機関との連携を図り相談、援助などの支持をしていく。	・子育てひろばは、毎月担当職員が設定を考え実施。地域の方々と関わる貴重な場となった。また、保育所体験は、節句などの日に、保育園での活動に参加、保育園を知ってもらう機会となった。 ・月2回臨床心理士と連携を図り、課題のある子どもについて個別に対応した。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

避難訓練の他に引き取り訓練、防犯訓練を行った。様々な状況を想定し取り組むとともに、地域の小学校、自治会と連携し津波災害などの避難訓練も行った。
また、法人の園外保育マニュアルを参考に自園の「散歩ルート、各公園マニュアル」を作成し急な災害時に備えルートの確認、公園での危険個所を周知することで危機管理の周知を行った。感染症対策では換気、清掃消毒を行い、感染予防に努めた。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

保育施設の安全面と清潔面、職員の挨拶や態度、保育内容の説明の不足に対する評価が低く、職員自身での振り返りを繰り返し行い、適切な対応をすると共に衛生面や安全対策など出来るところから改善する必要を感じた。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

子ども一人一人の様子や援助と関りに対し、理解を深めることを実感する職員が多く感じる。休暇の調整がしやすく働きやすさを感じているように思えるが、業務に追われ、コミュニケーションの希薄さが浮き彫りとなった。職員一人一人の想いにも寄り添い理解を深めることでより円滑な保育を展開していく必要を感じる。

6. 1年の総括

乳児保育として必要な担当制も3年を過ぎ、環境や職員の動きも円滑に進められようになった。子ども達の状況に合わせ何が必要なのかを考え、取り組む姿も多くみられ意欲を感じられた。しかし、やりたいことはあるが上手く日常業務を行う中で、時間の使い方や事務処理等、各自のスキルなどの差が大きく、職員間のコミュニケーションの希薄に繋がってしまった。次年度は職員の子どもに対する想いが、保育の展開と職員間の円滑な人間関係に繋がるように子ども、職員一人ひとりに寄り添っていきたい。

令和元年度　東小松川おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・明るく、健康で、挨拶がはきはきできる子。　・思いやりのある優しい心を育む。　・感性を大切にし、伸びやかに表現しようとする子。
・心身の発達を見守りながら、身体機能の発育を目指す。

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・子どもの要求や思いを敏感に察知し、特に朝の登園時等に子ども達に、寄り添い落ち着くよう、保護者にも安心して利用できる関係を築く。保育の中で静と動のバランスを取り一人一人が伸び伸びと生活出来るようにする。	・乳幼児会議で子どもの様子を話し合い、昼礼での報告を聞き子どもの気持ちについて受け止め保育した。 ・集団生活を通し、人との関わりで優しさ、我慢する気持ち等を学ぶ事が出来た。活動に対して、見える化で表現しているが、自然な形でお礼や挨拶が出来る事を期待したい。
教育	・地域の公園でのマナーや順番、使い方を身につける。 ・散歩等を通して、自然に触れ、興味や関心を持ち、その中で交通ルールを学ぶ。 ・食事を通し、食べ物のありがたさや、食べる大切さ、マナーを身につける。	・家庭で食べられない食材等、クラスの集団で食事をすることで、興味を持って食べられるようになった。 ・集団の中で公共のマナーが、身についた。
子育て支援	・保育参観、保護者の保育士体験を通し、保育園を身近に感じ子どもがどのような生活しているか関心を持つ。 ・地域の方に子育てひろばや保育所体験を通し保育園を知ってもらう。	・保育園に足を運んでもらい子育てする上で、悩みや不安を理解をしてもらい相談相手がいる事で安心し「子育てへの意欲が高まった。」とのお言葉を頂いた。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

・他県で散歩中の事故をうけ、保育園での散歩のルート確認、再考、危険個所の周知、確認を全職員が会議等を通し検討した。
・台風等、水害警報の経験をしたことにより、水害時の避難訓練確認計画を立て、職員全員で避難ルート等の確認をした。
・感染症に関して園舎、玩具消毒、換気、手洗いの徹底を行った。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

毎日「本当に楽しい」と子どもが笑顔でお迎えの時に抱き着いて来ます。「急な残業でお迎えが゛遅くとも、気を付けてと明るく対応して下さりありがたい」との事、園内や子どもに対しての関係が、良いとの事で評価を頂いた。また職員によって帰りの対応に差があるとの評価を受けた。園舎に対して老朽化で直してほしいとのご意見を頂いた。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

全クラスでの連携を取り、お互いに指摘できる仲間がいる。保護者との職員の雰囲気が良い。施設の老朽化による様々な不具合があり見た目が悪い。行事中心の保育の為行事に追われている等の意見について、改善していく。

6. 1年の総括

開園して13年目、築年数53年と言う事もあり老朽化も進み、特に給食室の改修、更新を行った。今後は、子どもの使用する部分(トイレ等)を計画。保育の質の向上を目指し保育指針に従い、園内研修や子どもが自発的に行えるような環境を整えるようにしてきたが、実生活の中でどのように活かし保育するかということに至らず、次年度に繋げる。

令和元年度　鹿骨おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・健康で明るく元気に遊べる子　・豊かな心を育み素直に表現出来る子　・友達を大切にし、何事にも協力出来る子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・全職員で、園の保育方針と子どもの人権について確認した。 ・保育環境の設定が子ども達の生活動線や玩具が適切であるか園内研修やケース会議等で振り返りを行った。 ・安全で快適な保育環境を提供出来るよう努力した。	子どもの人権を守り、一人一人が安心して園生活を出来るよう、保育者が温かく応答的な保育を概ね実践出来た。年度当初「保育者による人権擁護のセルフチェック」を行い、保育者の言葉がけの大切さを一人ひとりが意識できるようにしたが、常に振り返ることが大切であり、引き続き行っていきたい。子どもたちの生活動線を職員間で見直し、年齢にあった保育環境作りに努めた。それにより生活の流れがスムーズになり、身辺自立の助けになっている。今後も安全に重きをおいていきたい。
教育	・行事の意味を職員全員で考え行事計画を立てた。 ・日常生活の中で自然事象や豊かな体験を通して、子ども達の感性をより豊かにし、自発的に活動できるように努めた。 ・講師による教育活動も保育の一部として連動性を持たせた。	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、子ども達が遊び込めるように年齢に応じた環境設定と遊びの援助が出来るように、保育環境についてテキストを読み、講師を招き保育環境について学んだ。その成果として積極的に保育環境を考えるようになった。そのことで、子どもたちが落ち着いて遊び、トラブルも減った。「子どもたちが主体的に活動する保育」については、保育者主導になりがちであり、精進したい。講師による教育活動は講師とコミュニケーションをとり円滑に行うことが出来た。
子育て支援	・懇談会、面談で園の方針を伝え、理解して頂くように努めた。 ・登降園の際など子どもの様子を伝え、園と保護者が子どもの成長を喜び合えるように努力した。 ・子育てひろば、保育所体験などを通し、地域に開かれた子育て支援をした。	日々の子どもの様子が分かるように「見える化」を進めた。写真や動画を見ることで保護者は安心し、子どもの成長を喜んでいた。しかし、クラス付近に掲示していたため登降園の状況によっては気づかれないこともあった。今後は掲示方法を工夫していく。 地域の子育て家庭の支援として子育てひろば、保育所体験を実施。上半期は参加者が少なく、周知方法を掲示板、ホームページだけではなく子育て施設にもご協力頂き、周知していく。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

・子どもの命を守る施設として、救急救命研修、嘔吐処理の実践練習、避難訓練、引き取り訓練など繰り返し必要な習得をしている。災害時等、迅速な対応が出来るようにしていく。10月の大型台風など水害災害にも対応出来るように行政の指導の下、「水害時の避難計画」を作成した。BCPの再確認を職員全員で行った。今後は毎月行っている避難訓練を危機感を持てるように事前告知せず実施、工夫をしていく。
・感染症対策は、日ごろの手洗い、うがいを丁寧に行い、発生した際保護者に注意喚起し、拡大を防ぐ。手洗い教室を行い、手洗いに対して興味を持ち、丁寧になった。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

概ねの保護者は園運営についてご理解を頂いている。職員への労い、感謝の言葉も頂いている。行事に関しても感想アンケートはとても良い評価だった。見栄えが良いところだけを注目している方もおり、保育の延長に行事があることをより分かりやすく発信し、理解を深めていく。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

保育目標、組織目標に対して「チーム鹿骨」として努力していこうという思いは皆持っている。保育や行事等の調整、変更についてアンケートを取って話し合いもしているが、「やらされている感」を持つ者もいた。伝達の周知、休憩の取り方など個人差があり、不満材料にならないようにしたい。

6. 1年の総括

園長として三年目で中長期計画としては一区切りの年であった。指針に沿う保育を考え、乳児保育については新しい乳児保育を模索していた。今年度から園内での乳児保育の基本が確立して始動出来た。これにより乳児が落ち着き、噛みつき等減少。子どもの変化で職員も手ごたえを感じたことが一番の喜びである。保育者は保育の喜びを感じられることが仕事の喜びになり、離職防止にもつながると思うことで、一人でも多く「保育が楽しい」と思う職員を育てていきたい。巡回支援、乳児保育、環境について、外部からご指導を頂き、その時に「保育を頑張っていますね」とお褒めの言葉を頂くたびに職員の頑張りの成果だと思う。

令和元年度　北葛西おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

・明るく元気な子　　・あたたかい心、やさしい心を育てる　　・豊かな表現活動と創造力を養う

2.年間報告

	年間計画内容	評価　反省
養護	・子どもが、安全で快適に過ごせるようにする。 ・怪我、事故を事前に防ぎ、全職員でマニュアルを確認、意識を高め、安全な環境作りを行う。 ・安心して気持ちを表し、自己肯定感が育まれるようにする。 ・個々を丁寧に理解、受け止め、肯定的な言葉掛けを行う。	・園庭門の鍵や生垣の修理を行い、防犯面の強化を行った。事故防止マニュアルを事務所に、又年齢別の物をクラスに置き、職員一人一人の学びを深めた。ヒヤリハットの気づきを更に高めていきたい。 ・月に一度の臨床心理士とのカンファレンスで、子どもとの関わり方や捉え方、保育士の言動についてアドバイスを貰い、各自の振り返りやクラス担任の意識共有に活かすことが出来た。 ・自己肯定感が高まるような個々を大切にする保育へと繋げることが出来た。
教育	・子どもの遊びの充実と環境設定を見直し子どもの様子をしっかりと見つめ、興味関心に気づき、受け止め、写真を使いマニュアルを作成、見える化をしていく。 ・子どもが主体的に遊べる環境設定を整え、展開。週案、月案を作成する際に子どもからキャッチした内容を活かす。	・乳児クラスの玩具と室内環境の見直しを行った。特に1歳児クラスでは、子どもの生活の動線を考えコーナー作りをし、安全性を高めることが出来た。又、年齢や発達に合わせた手作り玩具を用意することで、集中して楽しむ姿が多くみられ、遊びの充実へと繋がった。 ・子どもが興味をもった内容を活かして保育を進めていけるよう、各クラス取り組んだが、写真等を使用しての見える化の部分は難しかった為、今後、園内研修等も行い、学びを深めていきたい。
子育て支援	・保護者の思いに寄り添いながら、共に成長の喜びを共有。 ・日々の送迎時や個別の相談でコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの良い面を伝えていく。必要に応じて専門機関を紹介し、共有しながら成長を見守っていく。 子育てひろば、保育所体験の充実	・日々の送迎時や行事、面談等を通し、保護者とコミュニケーション深め、子どもの成長を共に喜ぶことが出来た。悩みを抱えている場合は、更に専門機関に繋がるよう働きかけた。外部療育を利用することで親子ともに安定し、子育てにプラスになっている。 ・冬の時期は、感染症が流行し、子育てひろば、保育所体験の実施が出来ないことがあり反省に繋がる。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

全職員のAED研修を実施。新規職員をはじめ、全員で再確認をし非常事態に備えた。又、危機管理や事故防止に関するマニュアルの再確認を行い、事務所の避難用リュックに危機管理ファイルを常備、合同、土曜保育時の対応にも備えた。散歩時のマニュアルは職員が改めて考える良い機会となり、活用した。
嘔吐処理方法の実践研修を行い、非常勤職員も対応できるようにした。2月半ばに嘔吐、下痢の発症が見られたが、感染が拡大することは無かった。インフルエンザが1月中旬から2月初めに掛けて流行した。新型コロナウィルスに関しては法人と対応方法を確認しながら、対策を実施した。

4. 第三者評価保護者からの評価を受けて

園庭門の鍵に関する声が多く上がっていたが、修理を行い、安全面の強化を実施。園周辺の環境も良く、自然に触れる機会が多い点や、園での活動が子どもの心身の発達に役立っているという評価が高い。子ども同士のトラブルがあった場合の職員の対応に関しては、より注意深い配慮と伝え方に気を付けていきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

職場内の人間関係が良好で、話しやすい、相談しやすい先輩がおり、学ぶ機会が多いという評価が多い反面、職員体制が厳しいと改善を求める声が多数あがっている。子育て中の職員が多く、助け合いが必須であるが、同時に負担が増えることにも繋がっている現状がある。

6. 1年の総括

職員が子ども一人一人を尊重し、丁寧に接する事、情報共有し全体を把握する事を心掛けた。育休取得や固定時短勤務を利用する職員が多く、クラスの垣根を越えての協力体制を作り上げることが出来た。乳児クラスは室内及び玩具の見直しを行い、安全性と遊びの質が高まり、新規職員の学ぶ機会になった。運動会は天気に恵まれ4年ぶりに校庭で実施、全園児伸び伸びと表現することを楽しんでいた。1月に行ったクラスごとの保護者会では、予め質問事項を募集し、グループトークの時間を設けた。子育ての悩みや情報交換の場となり、保護者同士の繋がりが深まる良い機会となった。

令和元年度　葛西第二おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

・明るく健康で元気な子　・思いやりのあるあたたかくやさしい子　・自己主張ができ最後までがんばる子

2.年間報告

	年間計画内容	評価　反省
養護	・大人との信頼関係を築く。 ・様々な場面で、保育士をはじめ関わる大人が子どもを理解し支援することで、愛され認められることを感じ自己肯定感を高める。 ・子ども一人一人の安全と健康を守る。	・一人一人の発達や課題、家庭環境を的確にとらえ必要とする支援が行った。又、クラス単位ではなく、園全体で情報を共有し厚い支援に心掛けた。大人はよき理解者であるという関係を築いた。 ・年始から、新型コロナウィルスの感染拡大防止に向けて様々な対策をした。感染防止の職員の意識は高く、徹底した消毒と子どもの命をを守るための保育体制の成果は大きい。この感染防止への取り組みは今後、保育園の感染に対する危機管理に役立つ。
教育	・子どものしたいという気持ちを引き出し環境を保障しよう。 ・あそびのプロセスの中に学びがあふれている事を意識し、保育の環境を保障していく。 ・英語、リズム、体育あそび等がその時間だけの活動とならないように日常に取り入れ、講師と保育士が一体となり活動する。	・主体的にあそび、プロセスを大切にする保育を意識した。行事では園全体や各クラス計画を丁寧に立案し進められたが繰り返される毎日の中では主体性に対し取り組みが浅くなってしまったように感じる。 子ども自らが様々な場面で、自ら選択し行動できる日常をどう作り上げていくかが課題となる。 ・講師主導の活動になることなく、進めることができた。講師から技術を学び、日々の活動の中に取り入れる保育を展開することができ、この成果を運動会や大きくなったね会で発表することができた。
子育て支援	・地域子育て支援である子育てひろば、保育所体験の内容の充実を図るため保育士が学ぶ機会を設ける。 ・活動内容としてふれあいあそび・わらべ歌の伝承と発達にあった玩具や絵本の紹介を取り入れる。	・子育てひろばで、ふれあいあそびやわらべうたを取り入れた活動を行った。(リズムあそび講師より学ぶ)参加者は0～1歳が多いく、保護者にあそびを伝えることで子どもとの、向き合い方を知らせる育児支援をした。又、手作り玩具や、年齢にあった絵本の読み聞かせや紹介も好評であった。 ・リピートの家庭が多いく、新規の参加が少なかった。地域へのより広い周知と内容の充実が課題。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

避難訓練は様々な場面を想定し行った。ベテラン保育士に頼りすぎず、若手の職員だけの時に発生する災害を視野に入れ全職員の危機管理意識を高めていった。
他県での事故をきっかけに散歩のあり方を見直す機会を得た。散歩経路、引率の人数、公園内での約束など法人で統一し安全対策を強化した。
年明けからは新型コロナウィルス感染拡大防止に全力で取り組んでいった。徹底した対策の成果はコロナウィルスだけではなく冬に流行するインフルエンザ・感染性胃腸炎の感染の減少という数字に表れた。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

職員の朗らかさ、チームワークに対する高評価が得られた。日常の保育や行事等対し工夫がみられる等の意見も頂いた。課題点として送迎時のコミュニケーション不足、園での子どもの様子がわからないとの意見もあった。保護者との対話を大切に信頼関係を築きたい。また情報発信(ブログ、お手紙)も今以上に積極的に行っていきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

職員間の関係も良好で相談しやすく、働きやすい環境であると感じている職員が多い。ITC導入も安定し、業務軽減につながっているとの意見も増えたがやはり業務は多いと感じている。休憩の保証に対する意見もあり、課題となる。

6. 1年の総括

職員の保育に対する志しは高く、子どもにとって何が必要かを考える姿勢が感じ取れる。子どもについて常に職員間で話し合い、多角的にアドバイスを与え合える環境になっている為、保育や保護者対応の悩みに押しつぶされることがない。園外保育(散歩)、プールの監視強化、新型コロナウィルス対応等、危機管理の強化を求められる1年であり今後に活きる新たなマニュアル確認となった。しかしそのために保育に対し規制がかかり、子どもたちに満足のいく1年を送ってもらえたのだろうかという思いの残る1年となった。

令和元年度 春江おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・心身ともに健康な子　・意欲をもって活動し、自分を表現できる子　・思いやりをもって人と関わり、友達を大切にできる子

2.年間報告

	年間計画内容	評価　反省
養護	・身近な大人や友達との信頼関係を、保育園生活の中で気づき、安心して過ごし、自己を表現する。 ・異年齢との関わりの中、自らの強さや弱さを知り、思いやりを育んでいく。 ・竹馬等の活動を通し、諦めない心の強さを培う。戸外遊びや散歩、体操を通し、バランスの良い強い体を養う。	・補助付き竹馬を4歳で取り組んでいたこともあり、5歳児での竹馬は、意欲的に取り組む姿が目立っていた。 ・園庭遊びや散歩で異年齢の関わりから、夏祭りでは4，5歳児が一緒に関わり、コーナー作りに携わって作り異年齢児の関わりが出来た。 ・各学年2クラスずつあるが、同じ学年での交流や生活もあり、子ども同士や交友関係も広がり、幼児を中心に行動の活発さに繋がっている。
教育	・子どもの行動や言葉を否定せず、子ども自身の気づきを大切にし、学びに向かう力を育んでいく。 ・栽培活動を通して、植物の生長観察や虫の飼育から生命について知り、自然や社会への興味をもつ。 ・散歩や避難訓練、買い物等の体験を通し考えていく。	・畑でのさつま芋の栽培活動を軸としているが、収穫から調理することを重視してしまい、栽培の過程の水やり等の世話について、学ぶことが少なく、収穫したさつま芋の大きさや形、重さ、数などへの興味に繋げることができなかったことは、反省、課題である。 ・様々な活動のねらいをしっかりつかみ、保育へと繋げられるよう確認し、子どもの成長を感じる保育を目指したい。
子育て支援	・子どもの健やかな育ちを共有することをねらいにし、絵本の貸し出しを行い、親子で共有する時間増やし、子育ての楽しさを感じられる機会にしていく。 ・連絡帳や日々の掲示、お便り、登降園時を通して、子ども達の姿を伝え、子育ての喜びを実感できるように努める。	・絵本の貸し出しについて、毎月の園だよりに継続して掲載、定着しているが、借りる家庭が限られている。新規の絵本等更新し、絵本を興味を持てるよう工夫をしたい。 ・登降園時間を大切に、保育での気づきとして、子どもの姿を伝えられる様努めているが、保育士の個人差がある。大切にされていると実感できる様、丁寧な対応に心掛けていく。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

1月、胃腸炎が流行、保健所の指導を受け、園全体で消毒の仕方を確認した。園舎内の消毒を徹底することは勿論のことだが、胃腸炎の場合は給食提供にも影響していくことを考えると、家族間での感染がある場合は、登園を控えてもらうなどの対応も必要と思える。
運動会当日に台風が直撃するなど、行事の度に悪天候になり、判断が難しい場面が多かった。地震や水害について考える機会となり、園全体で危機管理の対応を確認していく必要を強く感じ、今後に活かしていく。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

保育活動について、概ね理解を得られ、高い評価をもらえたが、保育士の対応について、言葉使いや態度の点で厳しい意見もある。接遇について意識を持ち丁寧な対応を心掛けていき、更なる保育園の理解へと繋げていきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

研修や会議で保育観や思いを共有できるようになったという意見もある一方、会議が多いという意見もあり、ワークシートを活用し、園全体で共有できる様工夫した。今後の会議の在り方や方法を検討していきたい。

6. 1年の総括

立地条件にも恵まれ戸外遊びや園庭遊びが不自由なくできる環境にあり、子ども達が体を動かし遊ぶことを保障できている。体操講師のアドバイスもあり、職員の意識も高まり縄跳びや鉄棒に触れる機会も増え、体力やバランスを養うことに繋がっている。ワークシートを使用しての月反省の取り組みでは、担任間の話し合いができ共有できることが増えたという職員の意見も聞かれた。子どもの姿を丁寧に伝えることをより意識し、理解に繋げていけるよう努める。

令和元年度　東小岩おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・明るく元気に仲良く遊ぶ子　・思いやりのあるやさしい子　・自分の思いや考えを表現できる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	健康な心と身体 乳児はハイハイや指先等の動きから、幼児は多様な種類の動きを経験し、体感覚を身に付け、身体のコントロールと遊びの様々な機能の発達による遊びの面白さへと繋げ、健康な心身を作る。受容的、応答的な関係性を大切にし、個々の気持ちに寄り添う。	幼児は体操あそびを通して多様な動きを経験する事が出来た。また個々の運動機能や身体のコントロール機能について指導者よりアドバイスを受けた事で、その動きを取り入れ活動を行った。引き続き、個々の成長を捉え進める。乳児は手作り玩具等を活用し、指先を使った遊びは経験出来た。身体のバランス機能に関しては今後も各種機器等を活用し、遊びの中で伸ばしていけるよう進める。乳幼児期は受容と応答を大切にし、子どもが何に興味を持ち、大人に伝えているかを瞬時に捉えていく事を今後も大切にしていく。
教育	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ。子どもが主体的に遊び、その遊びの中で10の姿が芽生えていく。子ども達の今、目の前にある興味に保育士が気付き、遊びや活動の中に取り入れ保育をする事で、10の姿が育ち、自己肯定感を育む。乳幼児期の主体的な遊びの経験を通して、小学校への学びに向かう力に繋げていく。	身近な環境の中で自然に触れる事が出来、園庭では虫探しや植物の生長に触れる等、子ども達が自ら興味を持ち、遊びを発展していく中で、同じ物に関心を持った友達と関係を作り、更に遊びが発展するという姿が見られた。また、幼児においてはその遊びが思考力を伸ばし、協同性が生まれ、表現する事に繋がった。その表現方法は多様で、沢山の人に見て欲しいという気持ちも生まれ、共感してもらう事で自信に繋がった。年長児は様々な活動から意欲や時には葛藤を経験し、自立心が育った。
子育て支援	相手の目線に立って寄り添う 保護者の話を傾聴、思い受け止め、子どもの育ちに必要な関わりを共有、保護者と共に育る。また、保護者の状況を全職員が理解し支援を考え、対応。子育てひろば等を通して未就園児の保護者と交流、地域に開かれた支援行う。	保護者と話する時は傾聴しを大事にし、話しやすい雰囲気作りも心掛けた。個人面談では相手の思いを受け取る事に重点を置き、子どもの成長を喜ぶと共に、悩みが深いと感じた時、保護者が前向きになれるような支援や対応を考えた。感染症拡大防止の為、ほっとタイムを行う事が出来なかった。 地域の支援では、子育てひろばや在園時との交流の中で、子ども達同士だけでなく保護者も保育士や他の保護者と交流を深める事が出来、育児相談の場ともなった。また入園にも繋がった。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

防犯訓練を2回実施、1回目の反省を活かし次回を経験する事が出来た為、職員の防犯意識や知識が高まった。法人総合訓練でより実際を意識した想定で行う事が出来、散歩時の対応や園内の本部設定の重要性や近隣園との協力体制の大切さを経験する事が出来た。反省点は改善し、取り組めた事は継続する。
感染症対策では、全国・都内等で感染症が流行し始めた際、保健ボードで知らせ、必要に応じて各家庭に手紙を配布し、園と家庭とでの予防に努めた。後半は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、園内清掃をより強化し、可能な限りの密を避け、大人も子どもも手洗いの重要性の理解・実施に努めた。今後も継続していく。

4. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

活動は心身の発達に役立っているか。興味や関心を持って行える活動になっているかに高評価を得た。他県での散歩中の事故を受け、見直し等を行った事から出掛ける機会が少なくなり、経験させたい等の意見があった。命を守るという事の重要性を理解して頂けるよう伝る。緊急時の連絡手段の改善を早急に行う。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

子どもの育ちについて共有出来た。行事は事務所も含めて取り組めたなどの意見を活かし、今後も継続していく。差異はあるが、事務作業、当番の軽減の意見もあり、意見交換しながら改善出来るよう対策していく。

6. 1年の総括

子どもの育ちについて共有する中で、一人一人の子ども達のよい面に目を向けられるよう、月反省でエピソードを語る事を取り入れた。子どもを中心に職員同士が対話する事で、新たな発見や保育の面白さにも繋がった為、今後も継続していく。台風・感染症等、日々、状況に合わせた対応に迫られる機会が多く、あらゆる想定で対応できるよう対策や準備に今後も努めていきたい。

令和元年度　西篠崎おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・元気にあいさつができる子　・思いやりのある子　・感性豊かな子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・乳児保育は、集団よりも個を考え、発達に添った丁寧な関わりを行う。環境は、子どもがより活動しやすいよう、物や玩具の配置を考え、発達に合わせた玩具を選び、子どもが主体となって遊び、過ごすことで身の回りの事や生活リズムを整えていく。 ・幼児については、自ら考え生活ができるように、食事、着替え、排せつなど積み重ねた経験をもとに構成する。	乳児保育では、コーナーあそびを多く取り入れ、自らが行いたい気持ちを尊重しながら好きな、遊びが出来るように環境を整えた。 また、食事、着替え、排泄等、身の回りの事を行いながら、一人ひとりの状況に応じ、発達を促しながら、基本的な生活習慣を身につけた。
教育	・様々な経験を通し、遊びを発見、発展し、自分で考えて行動できる力を育む。継続して活動が行える環境を整える。協力したり、諦めず、最後まで取り組む強い心を育む。 ・異年齢児交流の機会を設け、子ども同士での学びの機会を作る。身体を動かすことで様々な発達に影響があることから、リズム運動を取り入れていく。	講師との体操に取り組むだけでなく、日々の保育に体操を取り入れ、子どもの心身発達に力をいれた。体操については、運動会で発表する事はもちろんのこと、年間を通して取り組んだ事により、子どもの発達に大いに役に立ったと感じる。また、リズム運動を積極的に取り入れた事により、子どもの能力をのばす事ができ、自ら身体を動かそうとする意欲が育つようになった。
子育て支援	保護者の思うように育たない子どもの成長を、保護者に寄り添い相談を受け、子どもの成長を共に喜び合い、専門職としてのアドバイスができるようにする。子育ての事だけでなく、何でも相談できる信頼関係を作り心もサポートする。	乳児は、連絡帳を活用し、送迎時の日々の保護者とのやりとりを通し、子どもの様子を伝えた。 保育園ブログの更新回数を増やし、日々の保育の様子を伝え、特に写真を通して、保護者との対話のを増やし、職員と保護者の関係性を深めた。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

感染症対策として、早期対応の為に発生した時の周知として、全園児共通のボードでお知らせし、保健だより等でも注意喚起を行い、保護者との情報の共有を強化、園舎内の消毒等も都度行った。
避難訓練では、訓練時間を知らせずに実施したり、園外への避難経路を再考し、例年と想定を変え実施した。これからも様々な場面を想定して行っていく。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

会議を通して保育園内での取り組みを話し合い、子どもの気持ちを大切にする事、要望や不満に対しての対応について話し合いを行ったことにより、昨年よりも大幅に評価をあげたが、職員の服装や言葉遣いの項目の評価が低く、職員の接遇について注意喚起する。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

経験年数が少ない職員が多い為、人材育成に課題を抱えている。保護者支援はできてきているので、これからも職員の支援を継続していき、保護者からさらに信頼される職員の育成に努めていく。また、昨年度より有給取得率が増加したこともあり、職場環境が向上した。

6. 1年の総括

保育環境の整備、保育力の向上等、まだまだ道半ばの面が多くある。職員の資質向上を目指し、園内研修を定期的に実施したが、継続的に実施できない部分があり、来年度に課題を残した為、実施方法を検討し、引き続き実施する。また、休暇取得面の向上など、職員が働きやすい環境を構築する事も前年以上には成果をあげる事ができたので、引き続き取り組む。
全体としては、上記のようにうまくいく事とうまくいかない事の課題がはっきりみえているので、次年度以降に課題をみすえた運営を行っていく。

令和元年度　西小岩おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

・健康で明るい子　・意欲と思いやりのある子　・よく見、よく聞き、よく考え、創造性のある子　・最後まで頑張れる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・安全な生活環境を整える為、職員の気づきが必要であり、危険個所の確認、遊びの展開を予測したコーナーの設置、遊具の配置を行う。 ・感染症等、感染の拡大や長期化の傾向が予測される為、保護者、職員間で情報共有を行い、感染予防対策を図る。	廊下や保育室内に設置している子どもが使用しない机や棚を撤去、生活空間を広げ、新たに落ち着いて遊びが展開できるコーナーを各保育室に設置した。又、室内遊具についてはコーナーごとに関連したものを選び、遊びの展開が広がるようになった。 子どもの健康面に関わる内容について、園だよりや掲示板等、継続的に情報や注意喚起を行った。
教育	経験の積み重ねが教育へ繋がることを念頭に、活動に取り入れていく。体育活動においては体育機器を使用し、身体能力の向上に努め、集団活動での約束を身に付けて行く。又、講師とのカリキュラム上の調整や指導方法については、検討会や研修会を実施し、保育士と連携を図り進めていく。	年間計画の見直しを行い、課題に対しての取り組み内容について講師を交えた勉強会を行ったことで、職員の共通認識や方向性を整えることができた。又、社会生活に必要な態度や礼儀が身に付けられ課題として基本となる挨拶や聞く姿勢を自ら考え、行動に移すことができるよう今後も取り組んでいく。 鉄棒や跳び箱など、技術面より基礎体力（身体を支える体力や腕力）の低下を感じていることで、今後の課題としていきたい。
子育て支援	子育てひろばへの参加は、一歳前後の乳児が多く、年齢に則した活動内容を設定し、状況に合わせた対応を心掛ける。又、保護者同士のコミュニケーションが図られるよう、担当保育士の資質向上に努めていく。	夏過ぎ頃より参加人数が増える傾向にあったが、まだ歩行前の乳児の参加が多く、保護者同士の関係を求めている雰囲気を感じた。保育士が間に入ることで関係性を築くことができ、終了後に園庭で話し込む姿が多く見られるようになった。又、子育てひろば終了後、保育園児が園庭で遊んでいると、園庭遊びを希望する方が増えてきた。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

他県の保育園にて発生した散歩中の事故により、散歩マニュアルに対応できるよう確認を図った。園周辺の地域及びクラスの在籍人数により、散歩する職員配置の問題や安全確保に図れず、実施回数が例年より少なくなってしまつたが、保育室、ホール、園庭遊びのバランスを図り、活動を行うようにした。又、新型コロナウイルス感染症が世界規模で発症し、保育園での感染症対策や保護者の協力や理解を得ながら進めたが、登園自粛により少数保育での感染防止対策を、通常保育開始後に継続できるように検討が必要である。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

昨年との比較において、安全対策面での評価が高くなった。園庭内に門を新たに設置し、オートロックにより常時施錠できることことが評価されたと思うが、少数の保護者による扉自体を締め切らなケースが見られ、新たな不安や意見が聞かれるようになった。現在は扉に注意書きを貼り、意識を持っていただくよう改善を図っている。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

業務内容や保育内容の具体的な対応方法など、項目ごとに確認や改善を行ってきたことにより、共通認識が持てるようになった。しかし、自由性が無くなってきたとの意見が聞かれ、園としての方向性を改めて説明するとともに、職員の意欲向上に努めていく。

6. 1年の総括

異動後3年目となり、把握、改善（取組み）、成果（結果）が求められる1年であり、保育内容については全年齢が繋がりのある保育計画の作成及び実践、保育環境の改善に努め、必要備品の整理を行うことで安全面の強化や職場環境を整えることができた。しかし、乳児保育への取り組みにおいて課題を残しているため、保育内容の充実に向け、具体的に項目を設定し、あるべき姿に近づけられるようにしていきたい。又、新型コロナウイルス感染症という新たな対策や対応が求められ、最善の判断に悩む年であったが、子どもの命を守ることを念頭に、今後の危機管理に努めていきたい。

令和元年度　松江おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・心も身体も健康な子　・友達と楽しく遊べる子　・自分を表現でき、仲間と共感できる子

2. 年間実施内容

	年間計画内容	評価　反省
養護	安定した生活リズムをつくる。食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の自立。子どもの「やりたい」という気持ちを尊重し、一人一人がリズムをつくれるようにする。信頼関係をベースに主体的な活動を支えていく。子どものサインをキャッチし、関りや環境を工夫、自己選択を促し、温かく応答。	登園時の健康観察や保育中の子どもの様子の把握を実施。また、家庭での食事や睡眠などについて、保護者から情報を得て、一人一人の生活リズムを把握し対応することが出来た。様々な取り組みに対して、保育士は見通しをもち、子どもに分かりやすく手順や方法を示すなど、子どもが達成感を味わうことができるよう援助を行った。その結果、子どもが自信や満足感を持つことが出来、自分でしてみようとする意欲が日々の活動の中で見られるようになった。
教育	遊びや生活の中で何かに気づいたり、理解したりできるようになる。調べ、試し、考え、伝えあうことで、遊びの中で気づいたことや、出来ることを活かしながら考え、工夫したりする。又、心情、意欲、態度が育つ中で、思いやりや自信、相手の気持ちの受容、好奇心や探究心を育んでいく。リズム、体操、和太鼓、英語の取り組みを通して学んでいく。	子どもの自発性や探索意欲が高まるような環境を計画的に行い、子ども自らが環境に関わろうとする姿を、保育士は見守り、共感しながら、励ましたり、必要な助言を行ってきた。遊びや活動の展開に応じて環境を再構成しながら、保育士も子どもと楽しさを共有することにより、主体的な遊びや活動は更に豊かに広がりをもつものとなった。リズムは、身体を動かしながら異年齢児との交流も図れる良い場となり、和太鼓は、夏祭りで発表することで子どもの自信に繋がった。体操は、積み重ねることで身体づくりとなり、英語は、異国文化に触れる良い場となった。
子育て支援	保護者とのコミュニケーションを築く。地域交流活動の充実。送迎時における会話や、連絡帳、電話又は面談など様々な機会を持つ。一時保育の子どもが無理なく過ごすことが出来るよう、一日の流れや環境を工夫。 子育てひろばは、保護者の育児相談に、柔軟な対応を行い、不安を解決していける場にしていく。又、近隣施設と交流し、地域状況やニーズを把握、応えられるよう努める。	・送迎時の対話、連絡帳、お便り、保育参観や運動会などの行事、個人面談、保護者会などの様々な場面での保護者との関りを丁寧に対応するよう心掛けた。また、保護者の疑問や要望には対話を通して誠実に対応することで信頼関係が深まったと感じている。 ・一時保育は、利用のお問い合わせがあるが、今年度は受け入れを見送っている。例年、利用率が高いので体制が、整い次第受け入れる予定であったが実施出来ず。 ・子育てひろばは、保育園体験を味わっていただけるよう活動を進め、育児相談にも柔軟に対応した。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

防犯対策で警察の指導を受け、状況に応じた対処を学び防犯意識を高めた。法人総合避難訓練で、法人本部や近隣保育園との連絡連携の確認をした。また、消防士によるAEDの操作方法の指導を受け学びとなった。避難訓練では、訓練後の反省を大事に、様々な想定を考え、対応できるようにした。ヒヤリハットの記入方式を変更。ヒヤリハットを共有し、振り返る事で事故を未然に防げるようにした。園内研修では、「プール・水遊び」「散歩」の注意点などの確認を法人マニュアルにそって読み合わせを行い危機管理に努めた。感染症対策として、嘔吐処理の確認を行い、園内の消毒を徹底した。

4. 第三者評価保護者からの評価を受けて

「先生方が皆さん優しく笑顔で毎日接してくれて、安心して預けることができる」「保育士が子ども達と楽しそうに遊んでいる点、一人一人をよく見てくれ、その子に合う対応をしてくれており、満足している」等、信頼を寄せる声を頂いた。改善点としては、子どもの様子の報告、説明が不十分との意見があり改善したい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

職員同士の雰囲気が良く、相談、助け合ったりすることが出来ていることで、安定した環境の中、保育にも良い影響がでている。リーダー会議を定期的に行い、全体でおきていることを共有、課題に向けて取り組むことができるようになった。改善点は、書類・休憩の時間の確保がもう少し出来るよう工夫する。

6. 1年の総括

コミュニケーションが良好であると自然と笑顔になり、子ども達や保護者にも伝わり、安心感になると感じる。又、保育意欲も沸き保育力の向上に繋がるので良好な雰囲気づくりは今後も続けていけるよう配慮した。日々の保育で保育士は、子どもを尊重し、丁寧で受容的、応答的な保育を行い子ども達の気持をどう満足してあげられるかに努めた。子ども達の様子を見ていると特に幼児クラスは、遊びの発想が豊かになり工夫が多くみられ、乳児クラスも落ち着いて過ごしている様子が伺えた。保護者対応は、丁寧な対応を心掛けてきたが信頼関係を築くには時間がかかると感じ引き続き細やかに対応していきたい。

令和元年度　松本おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

心もからだも元気な子・自分の気持ちに素直に表現でき、思いやりの心が持てる子・話をよく聞き、何事もよく見て、よく考える子・意欲的に取り組み、最後まで頑張る子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・健康、安全が保障され快適な環境の中、安定した保育を行う。 ・一人一人の遊ぶ.食べる.休息する生活リズムを大切にする。 ・保育室の環境や生活の流れの見直しを行う。 ・応答的なやり取りを意識してわらべうた等を遊びを取り入れる。	家庭と情報交換を行い、子どもの生活リズムを整えるよう心掛けた。状態に対応し、じっくりと関わる時間を持つ事は、安定した保育を行う足掛かりになった。同時に乳児が毎日同じ時間にふれあい遊び等を繰り返し行い、生活の流れを作るだけでなく、運動面でも効果が見られた。特に離乳が完了していない子どもは細かい配慮を要した。タイヤやバスマットなどの戸外遊びの環境設定、室内では生活の流れ、動線を意識した設定を行い保育の充実に心掛けた。
教育	・子どもの発達の実情や興味関心をふまえた保育を行う。 ・玩具、絵本、遊具などの環境を成長に合わせて整備する。 ・異年齢児や地域の方々との繋がりを持つ。 ・自然に触れる社会事象に触れる豊かな経験をする。	玩具、絵本等の見直しを行った。年齢毎の成長に合わせた玩具の準備と、遊び方の共有は職員の課題である。子どもの興味をとらえた制作は素材や技法の工夫で、行事の製作、大小道具作りなど様々な経験が出来た。 運動面ではボールをテーマに各学年運動に取り組み新聞紙の手作り球から発展させ遊んだ事は、保育士自身のスキルのアップにも繋がった。異年齢児が交流を持ちながら、リズム、竹馬、こま等で遊んだ。 公園に花壇を作り世話をし花や自然に触れる経験が出来た。ヒマワリの成長は近隣の方々との会話の糸口になった。
子育て支援	・保育所保育の専門性を活かした支援を行う。 ・保護者が関わる機会を増やし積極的な保育参加を促す。 ・子育てひろばでは継続的な活動をプログラムに入れる。 ・行事に地域の方々に参加してもらう。 ・外国籍、発達上の課題のある場合他機関と連携をし適切な対応をする。	保育参観等と同時に機会あるごとに面談を行い、子どもの成長を一緒に喜び、不安に寄り添えるよう心掛けた。子育てひろばで、毎回恒例のわらべうたと絵本の読み聞かせは好評で、参加者やリピーターが増えた。 近隣の方々を招いての行事のフルート演奏会については、コロナ感染予防の為、開催できず来期に持ち越した。課題のある子ども、支援を必要とする子どもについては、個別に専門機関と連携し対応した。一時保護や退園に至る事案もあった。退園してからもなお支援を続ける必要もある。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

毎月の避難訓練の他に引き取り訓練、防犯訓練を行った。 散歩時の危険回避については、改めて職員間で話し合い、法人のマニュアルを参考に、コース、散歩時の留意点、散歩簿、等の確認を行った。水害、台風等の対策については、避難確保計画を作成。台風の際には、強風浸水に備えて、施設の整備、情報収集に努めた。土嚢や補強テープ、重要物品の運び出しなど、以降の災害に備えて資料を残した。感染症については、換気、清掃消毒、注意喚起の情報発信、保育体制の工夫などを行った。しかし、インフルエンザについては12月に流行保健所に報告、2週間で終息がみられた。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

散歩、保護者との信頼関係、職員の言葉使いや態度、保育内容の説明の4点について職員全員で話し合いをした。自らの行動を振り返り改め、コミュニケーションの必要性を再確認した。掲示物については、わかりやすいように掲示板の使い方を変更。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

子どもへの援助と関りに、職員が手応えを感じている事が分かった。改善すべき事項で保育力向上への意欲が感じられた。半面、有休や休憩、報連相に対する評価は各々置かれた状態の違いがあった。職員の気持ちを察し声に耳を傾けると共に、全職員が同じ気持ちで保育に取り組めるようにしたい。

6. 1年の総括

環境の整備にはじまり、子ども一人一人の成長や様子に合わせた関りや支援について職員全員で話し合いを繰り返した一年になった。各々の興味関心を大切にして保育した事で、朝夕の保護者とのコミュニケーションもより具体的になり、成長を共に喜び和やかな雰囲気がみられた。巡回指導を受け発達障害についての知識を深め、より望ましい対応を心掛け、外国籍や要支援の家庭への対応等にも心を配った。外部の講師による指導は子どものみならず保育士のスキルアップにも繋がった。今後も心もからだも元気な子ども、保育士を目指していきたい。

令和元年度　清新おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・元気でのびのび遊び子　　・よく見、よく聞き、よく考える子　　・友達を大切にし思いやりのある子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・一人一人の子どもたちが健康で安全に過ごせ、生理的欲求が満たされる環境設定をする。 ・子どもたち一人一人の家庭環境や発育を十分に把握、理解しながら保育を進める。特に発達に課題を抱えている子、アレルギー対応の子に対して丁寧に対応する。	子どもたちが安全な環境の中で、自分の好きな遊びや生活を送れるよう、乳児は小人数での活動ができるように環境を整えたが、手作りおもちゃや一人一人に寄り添ってじっくりと遊ぶ環境をを整えるまでには至らなかった。また、それぞれの発達に合わせた、玩具や遊びの提供が不十分だったと感じる。発達に課題を抱えている子どもが安心して過ごせる場所を作ることができた。アレルギー児には、誤配や誤食の無いように、チェックすることができた。
教育	・戸外活動を積極的に実施、元気にのびのびと遊び、子どもの主体的な活動を中心に進める。 ・水と緑に囲まれた恵まれた環境や立地条件を活かし、戸外での活動を多く取り入れながら、季節を肌で感じ本物に触れる経験をする。 ・専門講師と保育士が連携し日々の保育に中で、継続して行えるようにする。	戸外での活動を多く取り入れ、体を十分に使って遊べるようにしたことで、子どもたちが自然の中で、発見したり、季節の移り変わりを感じる機会を多く持つことができた。子どもたちが、自らがやりたいという気持ちをもち、それに対してじっくり遊びに取り組めるよう、コーナーを作ったり、廃材遊びを取り入れた。英語あそびやリズム、わらべうたは、日々の保育に取り入れることが出来ず、講師の活動だけになってしまった。
子育て支援	・様々な場面や機会を活用し、日々の保育園での子どもの様子を話したり、情報の共有を通し、保育内容を理解してもらう。 ・保育園という施設の機能を十分に活かし、地域に開かれた子育て支援を行う。また地域との連携を図りながら、子育て世代の支援を継続的に行う。	保護者とは日常の話や行事などを通じて話をすることで、信頼関係を築くことができた。また、ブログやクラスノートを活用し、日々の保育の状況を発信。近隣の保育園と情報共有を頻繁に出来なかった。子育てひろばに参加した家庭には、育児の悩みを聞いたりアドバイスをするように心がけた。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

避難訓練では様々な想定下、訓練を行った。怪我人の対応や職員が避難経路を自らが判断し避難する訓練等行った。感染症は、手足口病に感染した子どもが多く、園内の消毒、保護者周知を早急にしたが流行が長期化した。園内の消毒をし、冬に流行る感染症は感染者が少なかった。不審者対応の訓練やAED研修に参加したり、その時々の職員が判断出来るようにした。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

不満に思ったことへの対応をきちんとしてくれない、困った時の相談窓口をを知らないとの意見が多かった。行事や保育の内容について、説明が出来ていなかったと感じた。園の雰囲気が明るくなった、ブログの更新が増えたなどの意見も多くあった。今後は、様々な場面での説明をきちんと行い、保護者や子どもに寄り添える運営をしていきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

組織力の向上に向けて、組織としての学びとチームワークの促進に取り組み、会議での意見交換や研修報告、園内研修で共通した学びを行ったことで、良い方向に進んでいるという意見があった。更に職員自らが意見を言ったり、考えたり出来るようなった、保育を楽しんで行えるようになったなどの意見が多くあった。

6. 1年の総括

自然に恵まれ、園庭も広く子どもたちがのびのび過ごせる園舎でおもちゃも充実しているが、遊びの発展や発想が乏しく、使われていない玩具があり、職員が自分で考えたり、意見を言うことが改善できた。保育の環境設定や子ども一人一人に寄り添う保育を行い、報連相を徹底し行事や書類など出来るようにしたことで、様々な取り組みはしっかりとできていた。子どもたちが自由に好きな遊びを発展するためには、職員がもっと保育を楽しみ面白がったりできないといけないと感じた一年だった。

令和元年度　小松川おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・心も身体も健やかな子　　・思いやりのある子　　・自分に自信の持てる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・生活リズムを整え、健康な心と体を育む 生活の中で、静と動のバランスを考え活動する。体育遊びや個々の発達を考慮した運動遊びを取り入れ、体作りをする。ねらいに対して振り返りを行う。又、保護者に園での姿を伝え、家庭での様子を伺いながら協力して保育する。	保護者の登園時間の協力も有り、1日の生活のリズムが改善された。保育の中で、意識的に体幹を鍛える活動を取り入れる事で、個々の意思に応じた動きが出来る事の満足感を得ている。 職員全体で話し合う場を設けた事によって、ねらいを振り返り、意見を出し合う事が出来た。又、職員間で情報を共有し合う事で、担任以外からの情報も把握する事が出来、家庭と連携しやすくなった。 反面、保護者対応に個人差がある為、今後の課題にしていきたい。
教育	・子どもが主体的に関わり活動する 現状の保育を見直すと共に、子どもが主体的に活動するとはどのような事か職員間で話し合う。又、実践した事を園内研修で発表する事で学びに繋げ、自分の保育に活かす。一人ひとりの興味、関心に目を向け、活動を行う。経験した事が育ちに繋がるようにねらいを意識しながら保育する。	現在の子どもの姿を捉え、活動を通して子どもたちがどのような行動をするか想像して保育計画を行っている。園内研修では職員からの発信で、「保育目標を実現するには」「子どもの気持ちを受け止めるとは」等、具体的な関わりを考える機会を設けた。 乳児クラスは、一人一人の興味や発達に合わせて、新しい遊びや手作り玩具を用意していった。幼児クラスは、月に1回異年齢児で自分の興味を持った遊びが選べる場（わくわくデー）を設けた。「保育園で○○しよう」と期待を持って登園する姿が見られた。
子育て支援	・保護者が活動に参加し、園生活を把握し子どもと関る。 毎年行っている行事参加に加え、保護者が参加出来るものを企画する。地域の方との関わりを持つ。子育てひろばや一時保育を通して、地域との関わりを持つ。また、子育てに関して不安な気持ちを受け止めたり子育て新聞を通して、情報の提供を行う。	機会は少なかったが、保育参観で保護者の方に絵本を読んで頂いたり、仕事内容について話して頂いた。子どもたちも保護者の方を身近に感じ、興味を持って聞く姿が見られた。次年度も継続したい。 子育てひろばを通して保育園を知って頂いたり、地域の方と交流する事が出来た。保育園に入園した時のイメージも持つ事が出来たようだ。感染症の影響で子育てひろばを中止にした際、来園したご家庭に制作の材料を配布する等、家庭で楽しめるよう配慮した。今後も状況に応じて出来る事を考えていきたい。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

防災備蓄品を分散して保管した事で状況に応じ、運搬出来るよう改善した。又、職員が備蓄品の確認を行ったり、BCPの確認を通して意識の向上を図った。
散歩時の配慮等含め、今後も年度ごとに確認する機会を設けていく。6月に手足口病に罹った子どもが多く、感染症対策の見直しを行った。胃腸炎や溶連菌感染症は年間を通じて罹る傾向があった。流行もあると思うが、加湿や換気等に配慮した結果、インフルエンザに感染する児が少なかった。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

自然豊かな環境を生かした保育や行事等に満足との意見が多い。一方で保護者や子どもの対応に関して改善出来る事があった。今後も保護者の気持ちに寄り添いながら声を掛る事を意識したり、職員一人ひとりが自分の行動を振り返ると共に専門性の向上を図り、保護者の方との信頼関係を築いていきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

職員間の情報共有の為、クラス報告会議を始めた事で各クラスの現状や保育について話し合う場が増えた。シフト勤務に負担を感じているが、負担と感じる理由は個々に異なるので、改善方法を考慮していく。又、時間を有効に使う事が出来るように、次年度は会議の時間や内容、回数を整理し調整する。

6. 1年の総括

子どもが主体的に活動するにはどのようにしたら良いのか考え、保育を行った。まだ十分ではないが、今後も話し合いを重ね、出来る事から取り組んで行きたい。
会議を通して他クラスとの情報の共有を行った。少しずつではあるが、保育に対する思いや考え等の意見も交わすようになり、他の職員がどのような事を考えながら子どもと接しているのか知る事も出来た。自分の保育を振り返るきっかけになると良いと思う。
マニュアルを整備し、危機管理や感染症対策について職員間で共有した。次年度以降も、毎年読み合わせを行う事で意識を高めていきたい。

令和元年度　南葛西おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・ありがとうのこころ　・かんじるこころ　　・やってみようのこころ

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・健康で安全に生活できるよう日々の小さな事柄にも目を向け、職員間で共有し予防に心掛ける。 ・発達を理解し、信頼関係を深め子ども達にとって居心地の良い場所作りを心掛ける。 ・緊急時を想定した対応を再検討し、BCPや環境設定見直し、マニュアルの確認を行う。	安全、安心できる環境作りとして職員が、子ども一人一人の発達に目を向け、様々な方向から危険予測をし、「あたりまえ」のにとらわれず振り返る機会として定期的にヒヤリハットの検討会を実施、事例を全職員で共有し、子どもの育ちを意識し発達を見据えての予防策を検討、現状に合わせた防止策を検討することができ、予防につながった。また、職員間にて発達を共有したことで、見守り、受容しながら子ども達に接することに繋がった、また子ども達にとっても見守られている安心感に中、意欲的に生活できる環境となり、のびのびと生活を楽しむ姿がみられた。
教育	・子ども達の好奇心、発見を大切にしながら戸外遊びを積極的に行い、自然に触れながらの実体験の遊びを大切にしていく。 ・子ども自身が主体的な遊びに参加出来る様、遊びの知識、アイディアを研修等で身に付け、保育計画へと活かす。	保育の中で子ども達のつぶやきや子ども達が見つめる目線等、興味を大切にする保育を目指し、朝終礼等で紹介する機会を設け、子ども達の好奇心に寄り添えるよう共通理解を深めた。子ども達の興味に着目し、主体的な遊びについて、考える機会を持てるよう心掛けた。また、保育室の環境作りについて各クラスが再検討し行った。今後も園生活の中で流れの沿った主体的な保育について検討や改善が必要であり引き続き、共有しながら深めたい。
子育て支援	・地域との関わりを大切にし、子育てひろばの充実。保育所体験を通して乳児の発達や育児不安の相談を受け入れを行っていく。	地域との関わりとして近隣小学校との連携を深め、交流を行った。小学校との継続的な連携を持つことで、5歳児への小学校就学に向けての交流に加え、学校を介して中学校、民生児童委員や自治会等からの広範囲での地域の情報を共有することが出来、地域全体で見守りが園児、保護者等、更に安心できる環境となっている。子育て広場では地域の方の継続的な参加があり、また、子育て相談と共に地域情報を知らせながら園児との交流をした。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

危機管理意識向上に向け、緊急な出来事に対する対応を学ぶ機会を設けた。AED研修として近隣の消防署職員に指導を依頼し、乳幼児を想定したAED操作手順の習得に努めた。また、プール遊び時の緊急対応としてチームでの救急対応を学び、知識を広げることが出来た。防犯訓練では警察署の指導を頂き、実際の体験を通し、防犯意識を高め、意識することができた。感染症では日々の衛生管理について意識し、手洗いの徹底や清掃手順、嘔吐処理等、全職員で共通認識を持ち進めた。定期的な実践を交えた園内研修を計画した。次年度も注意し予防に努めていきたい。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

満足以上の回答が96.9%。中でも発達の合わせた保育活動、子どもの興味、戸外活動等評価を頂いた。また職員の笑顔や園の明るい雰囲気等、安心感を感じて頂いている。その中で今後の課題として保護者対応にて職員とのコミュニケーションの要望がある為、お迎え時の一声に留意し、努力していきたい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

職員間の関係の良さ、子ども達への受容を大切にした保育など、職員間の雰囲気の良さが伝わり、園全体が明るい雰囲気となっていると感じている職員が多かった。課題として関係の良さを感じているが、相手を思うあまり遠慮がちになり伝えたいことが伝えらないと感じている様子がある。お互いに意見しやすい環境作りが課題となっている。

6. 1年の総括

保育園の明るい雰囲気が子どもや保護者にとって安心感に繋がるよう、コミュ二ケーションを取り、職員間での話し合いの場を多く取るように心掛けた。相手を思うあまり遠慮となり互いに意見し合うことに遠慮があったが、発言の場を多く取り言葉にするきっかけを作ったことで、理解を深めることが出来た。。活発な意見交換ができ、互いの考えを知る機会を今後も心掛けていきたい。また、保育についての共通理解が必要であり、保育所保育指針の読み返しを全職員で継続的に行いながら理解を深めた。今後の課題として子どもの発達に合わせた主体的な保育について考え実施できるよう、園内研修等行いながら、考え共通理解していく機会を多く作っていきたい。

令和元年度　西葛西おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・こころも身体もしなやかで健康な子　・自分を表現でき、仲間と共感できる子　・チャレンジできる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・思いや欲求などを受けとめ、一人一人に丁寧に寄り添う ・体力づくりへの取り組み ・健康維持、感染症予防対策	身近な人と気持ちが通じ合うことで安心感が得られ、信頼関係が深まった。安定した気持ちで生活できるように、ゆとりをもった活動を心掛けた。時に個々に寄り添うあまり集団への関わりのバランスに欠け、怪我に繋がってしまう事もあった。年間を通して園庭あそびを積極的に取り入れ、ドッチボールや鬼ごっこなどを楽しんでいた。感染症予防では、外遊びの後以外でも登園後や昼寝後にうがい、手洗いを実施。自ら進んで行う姿が見られた。
教育	・夢中になって遊べる環境、好きな遊びや活動を十分に楽しめる工夫 ・活動を通した豊かな体験	興味を持ち楽しめる手づくり玩具に取り組んだ。乳児は棚を活用した手づくりのコーナーでボール落としや紐引きで遊ぶ姿が観られた。幼児は縦割り保育を通し異年齢の交流の中で行事、活動から遊びの幅が広がったと感じた。お店屋さんごっこ等、主体的に取り組める行事にも成長を感じた。野菜や米、苺、ひまわりの栽培を体験し、生長の変化に興味を持ち収穫に期待を持って世話をした。収穫期後半からの工夫があると良かった。
子育て支援	・家庭との連携 ・地域の子育て中の人たちが気軽に参加できる、ひろばの充実と雰囲気作り （地域の子育て支援の拠点としての役割を果たす）	保護者の声に耳を傾け、育児の悩みや発達についての相談など解決に向けて保護者の思いに寄り添い支援した。相談に来られない保護者に積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気や関係が出来るようにこれからも努力したい。地域の子育て支援拠点として、地域の子ども達が園生活や遊びに触れる良い機会となっている。法人での取り組みで園児が育てたひまわりの種を、ひろばの参加者に配布し喜んでもらえた。今後も地域の方が安心して参加できる、居場所や支えとなるように心掛けていきたい。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

他県の散歩中の事故により、散歩や園外に出る際の道順など安全面の見直をした。道幅、交差点での待機スペース、交通量等様々な視点から実際に職員が歩いて確認した。警察による防犯訓練、消防署の救命救急（AED）研修の実施、プールに関しては活動が始まる前に全職員でマニュアルを確認。嘔吐処理の園内研修の実施。災害に備え備蓄品の確認、使用方法等職員全員が確認した。2月頃からのコロナウィルス感染症では、感染拡大防止対策としてうがい、手洗い、検温、消毒等徹底して取り組んだが、都内における日々の感染状況にこれまで経験したことが無い緊張が続いていた。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

子ども達が主体的に取り組んでいる様子など、一定の評価は頂いているが、急な要望など柔軟に対応して欲しい、子どもの様子をもっと伝えて欲しい、職員によって差がある等、意見がある。保護者の思いに寄り添うことで変えられると感じている。今後は、柔軟な対応、伝達、質の向上に努め改善する。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

子ども主体の活動や個別に丁寧にみている、新しい行事を取り入れたことなど、良い評価があり継続する。人間関係に悩み、職員の異動、退職により経験の豊かな先輩保育士が少なくなり不安の声もでている。園内研修やメンター制度の活用、日常のコミュニケーションに心がけていきたい。

6. 1年の総括

日々の生活の積み重ねや子ども達の「やってみたい」という思いを受けとめ、子ども達が主体的に取り組める活動。全職員が理解し保育の中で大切にしているが、体験の積み重ねの重要性や子どもの思いに寄り添い保育を進めて行くには、職員一人一人の経験、スキルが要になってくる。これからも個人の成長が園全体の質の向上に繋がる為に、人材育成、相互支援的な職場環境に力を入れて行きたい。

令和元年度　中葛西おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・元気に仲良く遊ぶ子　・思いやりのある優しい子　・自分の思いや考えを表現できる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	保育者との信頼関係の基、情緒の安定を図り、成長に合わせて基本的な生活習慣を身に付け、自ら意欲的に行えるよう支援する。安全面と子どもの経験のバランスに考慮し室内環境を整え、日々の生活で様々な遊びを経験し、運動面、情緒面、知的な面等も合わせた身体機能の成長を促す。	子どもの発達に合わせ環境を整え、個別の計画を立てたことで無理のないプログラムで進めることが出来た。目標までの過程を大切にし、保護者へもその思いを伝えることで、園の取り組みを理解していただくことが出来た。繰り返し経験を重ねることで「できた」事を一緒に喜び、自己肯定感の向上も視野に入れ、成長を支えることが出来た。
教育	年齢や経験に合った運動、リズムあそびを通し五感を刺激して基礎体力の向上と身体の柔軟性や体幹を育てると共に表現することを楽しむ。絵本や物語に親しみ、興味や関心を持ち想像する楽しさを味わう。感じたり考えたことを自分のイメージで表現し楽しむ。（絵本の充実・お話会・絵本貸出）	散歩時の交通ルールや集団での移動のルールを子供が理解できるよう、命の大切さと合わせて丁寧に伝えた。又、職員の共通理解、保護者周知を迅速に実施し、安心して園生活が進められるよう配慮した。職員意識も変化が見られ、今まで以上に子どもの成長には安全が第一であることを園内で共有できた。リズムの園内研修では全職員で身体の使う場所や意識して伸ばすことでどのような効果があるのかを確認し、子どもたちに指導した。子どもたちも楽しみながらも意識をもって運動をしている。
子育て支援	保護者の日々の声に耳を傾けて寄り添い、求めている思いを見極め、専門性を活かした支援をする。 専門機関との連携を深め、様々な状況（障害・虐待・就学など）の支援を広げ、子どもにとってより良い環境とする。	職員の対応には温度差があり、伝え方に課題があった。保護者支援の目線、子どもの思いを汲み取り、保護者へ伝える言葉や傾聴など、見直すきっかけとなった。園の方針をしっかり理解できるよう目的と方法を個々が理解できる言葉で伝えて行きたい。育児不安のある家庭（障害・虐待）に対しては、全職員で注意深く見守り、共有し、保護者が相談しやすい環境作りに努めた。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

インフルエンザ・胃腸炎等は徹底した対応、保護者が受け入れられるよう園だより等で方針や協力依頼を伝えたことで、保護者意識も変化が感じられた。園と家庭が協力することで、感染拡大を抑えられた。又、職員が共通して正しい処理方法を全員が身に着けられるよう、園内研修を充実させた。研修を進めるに当たっては、説明する役割を理解の浅い職員を中心にしたことで、本人の勤勉意欲にも繋がった。手足口病については、医師の診断が甘く、広がりを抑えられなかった。今後の保護者意識の理解が課題となった。

4. 第三者評価保護者からの評価をうけて

全体の満足度は高評価ではあるが個々に伝えきれておらず、コミュニケーションを今まで以上に深め、園の考えを伝えられるよう努力する必要がある。要望も多く可能なことは迅速に対応しているが、園として集団生活上難しいことや方針と違うことは説明が必要。丁寧な説明を心掛け、大半の方は理解を示している。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

園内研修では大半が見直しや意識の改善が出来たとの声が多く、話し合いの場も増え向上した。業務の軽減も進められていると感じている者と、多いと感じる両者がいる。個人の考え方の差を埋めることは難しいが職員が納得できる方法を考えたい。個々の意見を尊重し話し合っているので大きな不満無く安心した。

6. 1年の総括

お互いの立場や困っている状況を理解し、助け合うことが自然と出来ている事は、子どもたちの良い手本にもなっている。職員の関係の良さは子どもたちの心身の成長や安定には大切なこと。保護者へは、活動の方針・方法・配慮・過程・結果・反省を伝える機会を作りオープンにし、子どもの生活と保護者の要望、職員の気持ちの3点を常に考え進めている。園として守りたい部分が見えにくい部分であることも多いので、誠意を示して伝えて行き、見通しをもって準備を進めた。開園して5年が経過し、保育の方針や特徴も理解され基盤がしっかりとしてきた。今後はより子どもたちの活動が豊かになるよう保育内容を充実させていきたい。

令和元年度　松島おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・心身ともに健康な子　・思いやりや感謝の気持ちが持てる子　・よく見て、よく聞き、よく考え行動できる子

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	・保育の充実と質の向上 園内研修等を通して、一人一人の発達を把握、気持ちを受け止め、丁寧な保育をし、保育の向上に繋げられる。様々な遊びを通し、成長に合った玩具や心に響く環境を整えていく。	職員会議でクラス報告を行う中、一人一人の姿について伝え合い、発達を踏まえながら職員全員で対応を話し合い、同じ処遇をしていくことで丁寧な保育が出来た。又、月2回の臨床心理しから、子どもの対応について指導を受け、その子どもの気持ちを受け止めた対応を心掛けるようになった。年齢に応じた玩具や保育環境については、引き続き見直しと改善を進めた。
教育	全ての保育計画において、保育士全員でプラン→実行→評価→改善の繰り返しを行い、連続性のある計画を作成する。	会議で月案を基に各クラスの活動を把握し、年齢に応じた活動や年齢ごとに繋がりのある活動になっていか等、話し合いながら進めた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえ、子どもの姿を見ながら連続性のある保育となるよう心掛けた。
子育て支援	・家庭、地域との連携 様々な行事、訓練等、町会や介護施設の方々に来園してもらい、一緒に体験、交流をすることで保育園に対しての理解を得る。（合同避難訓練等） 子育てひろばの充実として、外遊び、体育遊び、赤ちゃん体操等を取り入れ、楽しい雰囲気が伝わるようなプログラムを行い、地域の子育て支援、子育ての楽しさを味わってもらう。	子育てひろばでは、リピートして参加する家庭が増え、参加者同士の繋がりになっている。お互いに悩みを相談する等、良い雰囲気の中で行えた。又、園の行事に参加して頂き、在園児が一緒遊ぶ機会を持つことで保育園に対しての理解を得られていると感じる。 夏祭りでは町内会の方にも参加して頂き、交流を持つことができ園の様子を理解して頂く機会となった。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

危機管理については、園内研修やヒヤリハット報告を通して考える機会を多く持ち、安全に対する意識の向上と安全面を考慮した保育に努めた。全職員が災害に対する危機感を持てるよう避難訓練では担当を決めて訓練を実施。又、放送設備を取り付けたので園内放送による訓練も行い対応できるようにしている。
感染症は年間を通して比較的少なかった。手洗い、うがい等の感染症対策に加え、保護者へは掲示で感染症の状況を知らせ早めの対応を心掛けている。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

園全体で子どもを見てくれている等、職員の雰囲気への評価は高かった。又、開園から5年経ち独自性が出てきた事への評価もあった。一方で、日々の保育の見える化や保護者への周知方法の改善を求める意見、施設の老朽化を心配する意見がある。ブログの更新回数を増やし、保育園の状況を知る工夫、改善を図る。施設については門の改修等、安全面の強化に努める。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

子ども一人一人の状況に合わせた保育をしている、職員体制が厳しくなったが、職員皆で協力し合う雰囲気がある等、チームワークの良さが感じられる。保育の取り組みにおける自信を感じた。半面、体制の厳しさから余裕がなくなっているので、職員の声に耳を傾け気持ちに寄り添いながらも業務の改善を図っていく必要がある。

6. 1年の総括

開園5年目で、一人一人に向き合う保育が少しずつ定着している。特に配慮の必要な子どもに対しては、園全体で試行錯誤しながら対応してきた。新たな保育の取り組みは定着しているが、保育の質の向上に向け、今後も園内研修や会議の充実を図っていきたい。職員間ではコミュニケーションをとりクラスを超えて全体で協力する体制ができた。散歩マニュアルやプールマニュアルの見直しなど行い、危機管理への意識は高まったが、保育の慣れが常態化していることもあるので、当たり前を見直し安全意識の向上、保育の質の向上に繋がるような見直しを行っていく。

令和元年度　清新第二おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・元気に遊ぶ子　・思いやりのある子　・よく見てよく聞いてよく考える子　・最後まで頑張る子　・自分に自信が持てる子。

2.年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	子ども一人一人の発達に合わせた保育を進めていくと共に、様々な体験（行事等）の中で五感を刺激した保育を進めていく。安心して遊べる環境について、話し合いを行うと共に危険予測の意識を高めヒヤリハットを活用し再発防止に努めていく。更に感染症対策に力を入れ、集団感染とならないよう、感染症に対する意識向上に努めていく。	・夏以降「台風の影響」や「新型コロナウイルス感染拡大防止」の為、行事等が縮小（延期や中止）といった事もあったが、子ども達一人一人の行事に対する期待感や気持ちを十分に配慮しながら保育を進める。 ・感染症に対して、事前準備（備品等）の購入を多めにしていたため慌てる事なく対応し、集団感染を防ぐことができた。
教育	・体力向上に努めると共に、何事にも諦めず粘り強くやろうとする気持ちや出来た喜びや達成感、相手を思いやる協調性といった精神面の強化を行い、自信につながる様に進めていく。 ・挨拶の徹底を行い共にメリハリのある保育を進めていく。英語あそびを通し異文化に触れ国際感覚が養えるよう進めていく。	春から夏にかけ「散歩」の機会を増やし、体力向上に努めた。また、園の特色でもある「体育遊び」の中で個々の状態を十分に把握し、個々に合った声掛けを行い意欲や達成感、自信に繋げる。また、保護者から精神面での強化を望む声も聞かれた。挨拶の大切さや、やるべき時と遊ぶべき時のメリハリがつくよう、都度、子ども達にしっかり伝える事ができた。
家庭支援	子育てひろばを開催し、地域の子育て家庭に対し「保育の魅力」を伝えると共に、子育てに対する悩みや相談業務を行う。地域での子育て状況等の情報を把握し入園に繋げていく。	子育てひろばの参加者も増え、その中で「育児の相談（特に発達について）」や「入園に関する相談」もあり、子育てひろば終了後に時間を設け対応した。又、育休を取得している在園児の保護者も積極的に新規子育て家庭の相談にも乗って下さり、和やかな雰囲気の中、進める事ができた。（子育てひろば参加者から入園にも繋がる）

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

・感染症に関しては「手洗い、うがい」を基本とし保育を進め、保護者への呼びかけを行った。感染症に罹る園児は少なかった。
・防災備品及び衛生用品等を事前に多めに用意していた為、慌てることなく対応する事ができた。
・他児同士の衝突や転倒といった事で、事故に繋がる事が多くあった。又、怪我や事故に対して意識し過ぎ保育が小さくなってしまう事もあった。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

「発達に配慮した保育」「食事」「急な残業等への配慮」「英語、体育」といった部分に関しては高い評価を得るが、「安全管理」「保健衛生」「保護者とのコミニケション」に関する事に対して更なる向上を望む意見があった。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

常勤、非常勤の隔たりがなく、職員同士のコミュニケーションがとても良好、改善すべき点は、人手不足や業務量の多さなどの意見が多く、効率化や簡略化に向けた取り組みを進めていく必要性あり。

6. 1年の総括

保護者への伝達ミスや説明不足は少なくなりつつあるが、更なる「会話術」や「コミュニケーション作り」を行い、信頼関係を築ける様に進めていく。また、保育中での「事故や怪我」「台風」や「新型コロナウイルス感染拡大防止」といった様々な状況の中、即時の「判断や決断」を求められ、保護者への発信をしなければならない事が多々あり、事前に予測や想定を伝え、かつ準備等を行っていたため大きな混乱もなく保育を進める事ができた。

令和元年度　北小岩おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・明るく、元気に遊ぶ子ども　・思いやりのある優しい子ども　・感性豊かで意欲のある子ども　・よく見て、よく聞いてよく考えて行動する子ども

2. 年間報告

	年間実施内容	評価　反省
養護	障がいと言う言葉では当てはまらない、少々気になる子どもたちが増加したと思われる。日々、長時間過ごす保育園の場が大変重要であり、保育士と子どもの関わりのみならず保護者との密な繋がりを大切に考えていきたい。	本年度、何名かの障がい児をお預かりしたが、保護者が大変協力的に話し合いの場を設けて下さり、子どもたちにとても良い結果が出たと思う。子どもたちが安定して楽しく過ごせる保育園作りを目指していきたい。信頼関係構築が今後も継続し、よりよい子どもや保護者との援助に繋げたい。
教育	今年度,体幹を鍛えていきたいと、講師の先生との連携を密にしてリズム遊びや表現能力を保育士自身、子どもたちと共有することが出来た。	身体を伸び伸び動かすことによって、大きな怪我に繋がらなかった。又、反射的に手をつき身を守ることや健康への関心、意欲、態度が徐々に身に付いた。反省としては、講師の先生に全面的に頼るのではなく保育士自身、それを自分のものにして今後の保育、表現活動に役立てていきたい。
子育て支援	子育て支援のニーズに合わせて地域や他機関とも連携を図りながら進めて行った。しかしながら、この地域の実情に合わなかったのは事実である。災害時の協力体制を充実するなど、在園児はもちろん地域の進め方も必要かつ支援していく。	保育園としては高い評価を頂いているが、地域の方々に根ざした保育園の在り方には、まだ不足な面が、多々あるのが、反省部分である。子育て相談もきがるに出来るような保護者に寄り添っていける、環境整備に創意工夫を凝らし取り組んでいきたい。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

・感染症にについては、蔓延を防げたかと思う。早目の受診を進めたことにより成果が出たのが良かった。
・危機管理については川に囲まれた江戸川区の特性を、ハザードマップなどの資料を使い、職員で研修し今後の課題として生かせるよう努力した。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

全体的に明るい雰囲気で、清掃が行き届いている。民営化して柔軟に対応して、子ども達に配慮してくれるのは有難い。個人的な意見の中に一部の先生の態度が良くないというのもあった。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

園の目標、取り組みについては職員の理解を踏まえているが、もう少しきちんとした手引書の充実や標準化を図る取り組みをして欲しい。行事に関しては職員で話し合い積み重ねてきたので満足度が大きかった。

6. 1年の総括

今年度、年明けとともに新型コロナウイルスが大流行してしまい、行事等にも影響が及んだが卒園式まで終わることが出来た。次年度からこのような状況で保育に当たる課題も増え、問題点の提供に繋がった。

令和元年度　南篠崎おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・元気に遊べる子　・心豊かな子　・考えて行動する子

2.年間報告

	年間計画内容	評価　反省
養護	・一人一人を大切に落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごせるようにする。 ・個々の状況をしっかりと把握し、職員が各種会議などで情報を共有し子どもの成長や発達を理解、共通認識を持ち必要な援助や配慮を行う。	職員が保育中に必要以上に大きな声を出さないよう、心掛け、遊びなどに集中出来るよう取り組み、一人一人を大切にしながら健康把握、心の安定が図れるよう、状況に合った必要な援助を行うようにした。また課題のある子どもに対し、必要な援助を十分に理解、実践し、個に応じた配慮をしたが、十分でないところも見られる。課題を抱える子どもの増加傾向にあり、細やかな援助ができるように引き続き、共通認識し確認しあい、一人ひとりが安心して過ごせるように進めたい。
教育	・ラジオ体操やリズムあそび、運動あそびなどを保育の中に取り入れ、体幹、体力、運動能力の向上に繋げる。 ・異年齢児保育を通し、友だちや異年齢児と関わり優しさや協調性を身に着けられるようにする。	講師による体操を導入し、職員が保育の中で様々な身体機能の発達の為、運動あそびの時間を保育に取り入れ継続した。身体を動かすことで心身発達の向上がみられるが、苦手意識の強い子もいる中、気持ちを汲み取りながら無理強いせず実施した。ラジオ体操は毎朝行い、子どもたちの中にも習慣づいている。異年齢児交流は日頃の保育の中で、出来る事から行っているがリズムあそび、自由あそび等子ども同士の刺激になり、楽しみな時間となっている。今後も職員同士、連携を図りながら実施する。
子育て支援	地域に向け子育てひろばを行い、開かれた保育園となるよう子育て支援の内容や周知方法の検討をする。 保護者の気持ちに寄り添い、傾聴、こまやかな伝達を通し信頼関係の向上を図る。	子育てひろばの周知方法を、ホームページ、掲示、近隣店舗にポスターの掲示のご協力をお願いした。小集団な雰囲気の中、在園児と関わり、保育園の雰囲気を感じて頂くことができた。保護者支援については、様々な事情を抱え個別の配慮が必要な家庭も多く、関係機関との連携を取った。保護者面談も行っているが、保育士が保護者へ声を掛けながら、少しの時間でも話せるような機会を持つよう意識をしていく事を行っていく。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

民営化前から、園庭からの登降園を行っていたが、保護者からも安全面で不安との意見を聞き、正面玄関口から行うように改善した。保護者、近隣の理解を頂きスムーズに移行でき安心に繋がると感じている。他、園庭門が低い、自転車置き場が暗いなどのご意見はいただいている。感染症対策として、手洗い、うがいをしっかりと行うよう年齢に応じた指導を丁寧に行った。感染予防にも繋がるので引き続き継続していく。感染症が出たときは保護者へ周知するとともに、保育室、玩具などの消毒を細目に行った。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

保育内容について民営化前と比較した意見もみられるが、おひさま保育園になり、新たに取り組んだ内容や行事など評価する意見も多数あった。子どもたちの体調や様々なことの情報を共有し担任職員ではなくても話がしやすい等、嬉しい意見も多くあるが、職員の接遇が良くないなどのご意見もあった。しっかりと受け止め接遇を考え、改善したい。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

保育体制や当番等の負担を感じているが、子どもたちの事を考え職員が協力し合い、連携を図っている部分が良い点と思う反面、そうとは思わない意見もある。ほか、保育士の質の向上、連携など職員の一人ひとりが意識しながら考えていき、実践していく事が課題であると感じた。

6. 1年の総括

開園2年目を終え、、職員の思いや考えが少しずつまとまってきたように感じ南篠崎としての基礎が構築されてきていると思う。しかし保護者、職員に向けて課題は多く今後，丁寧に改善に取り組んでいくことが必要である。様々な会議で職員が話し合いを重ねているが、同じ方向を向いて保育を進めるため、職員が受け身ではなく意見を出し合い考え、お互いを認め合いながら保育ができるような方法も取り入れ考える。また保護者支援としてと更に信頼関係を深める為、関り方、伝達内容の充実なども考え、学びたい。今年度末のコロナウィルス感染症などもあったので、危機管理に対しての意識向上を図る。

令和元年度　新田おひさま保育園事業報告

1. 保育園目標

2020/3/31

・ありがとうのこころ　・かんじるこころ　・やってみようのこころ

2.年間報告

	年間実践内容	評価　反省
養護	園内外、周辺の散歩先等の危険個所や避難方法を確認し合い、危機管理意識を高め共通認識を持つ。職員一人一人が目標に即した保育を進められるよう、保育の視点を常に確認し合う。子ども達のその時の気持ちを大切にし保育士間で共有することで、子どもの「どうして」「やってみたい」「知りたい」にワクワク出来る保育の視点を持てるようにする。	年度初めに他県で散歩中の重大事故があったことで、散歩についての危機管理意識を高め共通認識を持てたことはとても良かった点である。保育の視点の確認は、月末のクラス会議の中で資料を使い、職員の想いや考えを聞きながら保育について語り合うことが全体の視点の共有になり良かった。更に実践に繋げていけるよな取り組みを考える必要があると感じる。
教育	一日の保育園生活の流れを一つずつ理解し整え、安定した保育園生活が送れるようにする。卒園までに育って欲しい10の姿を目指した子ども主体の保育をする中で、子ども一人一人が主役になれる遊びや生活を展開できるよう環境を整えていく。	乳児クラスは環境設定を中心に、幼児クラスは卒園までに育って欲しい10の姿についてクラス会議の中で学び合い実践してきた。乳児クラスは、年度末にようやく保育室内の環境が整ったことで保育が進めやすくなった。幼児は主に行事を計画する際に「こども」中心の考えを持ち意見を交換し合えたことが子ども主体の保育に繋がり、特に年長の子ども達の園目標でもある3つの心が育っていく経過を見ることが出来た点はとても良かった。
子育て支援	10月より、子育てひろばを開催する。新田地域はあまり知られていないこともあり、参加人数を考えると参加者一人ひとりに手厚い支援が出来る。地域が求める支援が出来る計画を立て実施し、地域の子育て支援に繋げる。	10月より、月2回の子育てひろばを開催した。1回、2，3組程度の参加でほぼ同じ家庭であった。新規の参加者が増えないのが悩みである。子育てひろばを開催していることを園外の方にアピールしていく方法を考えていく。

3. 危機管理、感染症対策　※数字は別紙参照

危機管理については民営化後、実際に自分たちで保育をする中で施設面などの危険個所をその都度確認し合い、子どもの導線を考えながら改善してきたが、まだ万全ではない。(登降園の際の園庭門の出入りがオートロックに出来ない。園庭からの登降園の為雨の日が不便である等)引き続き見直しを進めていく。
感染症が流行することなく年明けまで来ていたが、1月の中学生の職場体験を受け入れたことでインフルエンザが年長クラスにだけ流行し、卒園遠足等卒園までの残りの行事に影響したことは今後、受け入れ時期など課題として残った。

4. 第三者評価　保護者からの評価を受けて

民営化され保護者が感じていることを把握できたことは今後の運営の見直しの参考になりとても良かった。結果は全17問中13問で80から100％の高い支持をいただいている。保護者の想いをしっかり受け止め、改善点を保護者に知らせながら見える化して取り組んでいく。

5. 第三者評価　職員からの評価を受けて

引継ぎ期間より職員の関係作りを行って来たこともあり、職員同士では良好な関係が築けていることが把握出来るが、まだ、回答に遠慮があるように思える、保育を作り上げるチームとしての関係を更に築き、安定した保育に繋げていきたい。

6. 1年の総括

4月に開園し、区立の保育をベースに「おひさまらしさ」を加えた保育が出来つつある。第三者評価結果から保護者からも高評価をいただいた。職員一人一人はとても良い力を持っているがまだチームとして関係作りが出来ていない。働き方を見直すことでチーム力を上げ、更に関わる全ての人が笑顔でいられる、笑顔に戻れる人的環境を整えていく。